第2002回埼玉県教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和7年3月21日（金） 午後1時開会
午後2時14分休憩
午後2時24分再開
午後3時34分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 日吉教育長、坂東教育長職務代理者、小林委員、首藤委員、櫻井委員、今井委員、佐藤副教育長、古垣教育総務部長、青木県立学校部長、吉田市町村支援部長、案浦参事、小谷野教育総務部副部長、竹野谷県立学校人事課長、黒澤小中学校人事課学校管理幹兼副課長、廣川魅力ある高校づくり課長、南雲福利課長、遠井県立学校人事課主任管理主事、越小中学校人事課長、平野総務課長（書記長）
小島書記、三橋書記、大久保書記、星野書記、縣書記
- 4 会議の主宰者 日吉教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 日吉教育長が、首藤委員を議事録の署名者に指名した。
 - 会議を公開しないこととする事項について
日吉教育長が、第24号議案及び第27号議案から第34号議案までの審議について、会議を公開しないこととする動議を提出
全出席委員がこの動議に賛成し、当該事項について会議を公開しないことに決定
 - 日程の変更について
日吉教育長が、日程を変更し、会議を公開しないこととした事項以外の日程につ

いて先に行うこととする動議を提出

全出席委員がこの動議に賛成し、日程を変更することを決定

(2) 議事

第25号議案 学校における働き方改革基本方針の改定について

上程

竹野谷県立学校人事課長（提案理由、改定の趣旨、施行期日について説明）

小林委員 資料8ページの評価・検証について、現行の基本方針では、どのように評価・検証しているのか教えてください。

竹野谷県立学校人事課長 評価・検証につきましては、教育局の職員で構成するフォローアップ委員会において、各取組の達成状況に対し、業務削減の程度など客観的な指標を用いて毎年度実施しております。また、学校関係者や保護者の代表などで構成する多忙化解消負担軽減検討委員会においても、取組の達成状況などについて、意見聴取を行っております。

今井委員 資料7ページにある勤務実態調査から、どのようなことが分かり、どのような取組を強化したのか説明していただけますでしょうか。

竹野谷県立学校人事課長 まず、全校種とも副校長・教頭の時間外在校等時間が、ほかの職種と比べ長いことが分かったため、令和6年度に配置した副校長・教頭マネジメント支援員の取組や、県立学校については、ペーパーレス支援ソフトなどの活用により、教頭などの事務処理を効率化していく取組を行っています。また、「会議・打合せ」、「その他事務」など子供と直接関わらない業務の従事時間が長時間業務の上位にあることから、学校・教師が担う業務の適正化を図っていきます。具体的には、学校・教師が担う業務に係る3分類に基づく14の取組について、再周知と徹底を図るよう、県立学校及び市町村教育委員会に働き掛けることを強化してまいります。

今井委員 是非、ペーパーレス支援ソフトの活用を進めていただいて、実態調査の結果が良くなることを期待しております。

坂東教育長職務代理者 資料7ページのところで、2点ほどお伺いします。先ほど、

管理職である副校長と教頭の時間外在校等時間が長い状況にあると説明がありました。働き方改革を推進して6年目ぐらいになりますが、管理職の時間外在校等時間が長い状況にあるのは、昔からそのような傾向にあったのか、それとも、若い人たちをサポートしようとしているがために、段々と長くなってきたのか、その辺りのトレンドをお聞きしたいです。

竹野谷県立学校人事課長 勤務実態調査については、平成28年度と令和3年度にも実施しておりまして、平成28年度においては、副校長と教頭の時間外在校等時間は、ほかの職種と比べ最も長くなっております。令和3年度におきましても、副校長、教頭の時間外在校等時間は、ほかの職種と比べて最も長くなっております。

坂東教育長職務代理者 昔から割と管理職の方が、時間外在校等時間が長いということですね。管理職は責任を取られることもありますし、大変だと思います。もう1点お聞きします。やはり中学校の先生は、まだまだ時間外在校等時間が多い状況ですが、表2にある順位を上位から見てみますと、部活動に従事している時間は、ほかと比べると少なく見えます。中学校の先生の時間外在校等時間が長い理由について、どのような特徴があるのか教えてください。

黒澤小中学校人事課学校管理幹兼副課長 中学校の教諭等の時間外在校等時間が長時間化している原因としては、やはり、主な原因として部活動があると考えています。資料7ページの表2にございますように、部活動に平日従事している時間が49分でございます。大会等の出張に掛かる時間も足しますと、1時間3分でございます。また、こちらの表には示しておりませんが、令和6年6月の調査で、週休日における時間外在校等時間には小学校と中学校で大きな差がございます。やはり中学校教諭の週休日における従事時間は、部活動が約6割を占めておりました。そのようなことから、主な原因は部活動と考えております。

坂東教育長職務代理者 週休日に従事している時間を足すと、中学校の先生が一番長いということですね。

首藤委員 資料10ページ「1 目的」について、これまでの方針では「学校教育の質の維持向上を図る」とありましたが、今回の方針では、より分かりやすい表

現で「子供たちへのよりよい教育を実現する」となっています。こちらの目的を変えた狙いは何なのでしょう。また、「よりよい教育」というのは、例えば今までも、部活動にしても、授業の準備にしても、いろいろな教材の印刷にしても全部子供のためであって、よい教育をしようと思って教員たちは頑張ってきたわけですから、「よりよい教育を実現する」ということは、今まで行ってきたことがよくなかったのかなど様々な考えが頭を巡ります。目的を変えた狙い何なのか、説明をお願いします。

竹野谷県立学校人事課長 学校における働き方改革につきましては、教職員の負担軽減にとどまることなく、最終的には子供たちへのよりよい教育につなげることであるということを明確にするために改めたものでございます。

首藤委員 一つ一つの作業をICT化やDXを取り入れることによって時間を短縮する、部活動も日曜日に専門的な指導ができるような地域クラブに移行するなど、そのようなことで結果的に教員の負担軽減につながり、余った時間を授業準備や生徒指導等に充てる、それがよりよい教育につながる、そのような理解でよろしいでしょうか。

竹野谷県立学校人事課長 はい。

櫻井委員 資料11ページ「3 目標」について、今回新たにウェルビーイングを目標に入れたと説明がありましたけれども、あえてこちらのウェルビーイングという言葉を入れた狙い、それはどのようなことなのか教えてください。また、ウェルビーイングというのは、なかなか評価の仕方が難しいと思いますが、うまく取り組んでいるか評価するための数値目標などを、今後設定するのか教えてください。

竹野谷県立学校人事課長 まず、現行の基本方針に基づく各取組を通じまして、教職員の負担軽減やワークライフバランスの改善、子供たちと向き合う時間の確保などに一定の成果がありました。今後は目標達成に向けて、これらの取組を充実させることに加え、更に教職員の働きやすさや働きがいのある職場環境の確立を目指すために加えるものになります。二つ目の御質問につきましては、ウェルビーイングは、充実感や心の健康、仕事への考え方など、個人の主観的な感覚や

価値観によって左右され定量化が難しいと考えています。ウェルビーイングの数値は、これらの理由や仕事以外の多岐にわたる要因があります。仮に計画的な数値目標を設定するためには、今後同じ質問項目のアンケートを複数年実施し、経年の変化を分析するなど、更なる研究が必要であると考えたため、数値目標は設定しないことといたしました。

櫻井委員 せっかく教員も環境も全て良くしていこうという目標ですので、できればある程度のところでアンケートを取るなどして、取組がうまく進んでいるのかどうかも検証しつつ進めてもらいたいと思います。

日吉教育長 働き方改革については、まずはしっかり時間外在校等時間を減らしていくことが求められるのだらうと思います。ただ、先ほど課長から説明がありましたけれども、その評価・検証の在り方については、少し見直す必要があると思っています。数値目標だけを追いかけるといえるか、そこだけを目指していくと、場合によっては何か違う方向に進んでしまう可能性もあります。しっかりと生徒のためになっているか、先生方のためになっているかという観点も必要であり、その部分も合わせて見ていくことにしたいと思います。やはり、しっかり時間数を減らしていくとともに、その部分も視野に入れながら、今後新たな展開の仕方として働き方改革を進めていくということですよ。

竹野谷県立学校人事課長 はい。

日吉教育長 しっかり取り組んでいただきたいと思います。

○ 全出席委員異議なく本案原案どおり可決

第26号議案 魅力ある県立高校づくりの方針について

上程

廣川魅力ある高校づくり課長（提案理由、方針の趣旨、方針の構成について説明）

今井委員 資料6ページ「1 確かな学力の育成」のところで、「産学連携に向けた外部人材の配置やコンソーシアムの設置などにより、企業等と連携した学びを推進」と赤字で書かれておりますけれども、具体的にどのような取組を行おうとされているのか説明をお願いします。

廣川魅力ある高校づくり課長　これまで、例えば工業高校では、企業等に御協力いただきまして、専門技術を指導していただく取組を実施してきたところでございます。企業との連携を更に深めて、より一層充実した教育活動を実施していきたいと考えておりまして、地域の産業界と工業高校の持続的な連携体制の構築に取り組んでまいりたいと考えております。具体的には、産業界との連携を推進する工業高校を指定しまして、持続的な連携体制を構築するためのコンソーシアムの設置や、あるいは産学連携のコーディネーターの配置等を行いまして、学校と産業界の連携した取組のマッチングを進めてまいりたいと考えております。引き続き、工業高校の魅力を高め、その魅力を発信して、地域産業を担う人材の育成、輩出に取り組んでいきたいと考えております。

今井委員　是非、工業高校だけでなく、様々な学校で企業と連携が図れるような取組が広がったらよいと思いました。

櫻井委員　資料 8 ページの赤字部分について、前回の協議のときも、再編の際に地域の事情をよく考えて進めてはいかがかという意見を申し上げた覚えがあります。これに伴いまして、「地域によっては生徒の通学状況などにより、一定の学校規模を下回る小規模校を維持することが必要となる場合がある。小規模校での教育活動を維持し続けられるようにオンラインを活用した遠隔教育の研究を進める」という文言が入っていますけれども、こちらについて 2 点質問があります。1 点目は、一定の学校規模を下回る小規模校を維持することが必要となる場合があるという言葉がありますけれども、こちらは具体的にどのようなことを想定されているのでしょうか。2 点目は、オンラインを活用した遠隔教育の研究という言葉がありますけれども、具体的にどのようなことを研究していくのでしょうか。

廣川魅力ある高校づくり課長　1 点目につきまして、再編整備を進めることは必要だと考えているところでございます。ただ、例えば高校が所在する周辺の生徒が入学する割合が高く、また近隣に高校が設置されていない、交通不便地であるといった場合など、高校が無くなると生徒の通学が著しく困難になるような地域も出てきてしまう、そのような場合を想定しているところでございます。具体的な再編整備の検討に当たっては、方針に記載してあります、再編整備の観点を踏ま

えながら、総合的に検討していきたいと思います。2点目につきまして、オンラインを活用した遠隔教育の研究については、今年度、滑川総合高校から小鹿野高校に「福祉」、また戸田翔陽高校から春日部高校の定時制に「日本語」の授業をオンラインで行うような研究をさせていただいております。この取組の中で、生徒数の少ない学級の生徒がほかの生徒の意見に触れる、グループワークでコミュニケーション力を培うなど、充実した学びの機会を提供できているところもございます。他方、授業を配信する先生は、受信側の教室にも配慮しなければならないところもございます。配信側の教室の生徒からは、通常の対面授業よりも教員に質問がしづらいというような声もあったところがございます。また、受信する側では、教員の声が聞こえづらい、あるいは資料が見えづらいといった課題も確認できたところがございます。来年度以降になりますけれども、配信センターというような形にして、目の前に生徒がいない状況で、教員が授業配信に、より集中できるような環境を整備するなど、オンラインを活用した、一層充実した授業の方法を研究してまいりたいと考えております。

櫻井委員 オンラインによる遠隔授業については、今回の説明にあったとおり非常に有効な手段だと思いますし、進めてもらいたいと思っておりますけれども、遠隔教育について、現状で制度というか一定のルールがあると耳にしたのですが、どのようなルールがあり、ルールに対してどのように対応していくのか教えてください。

廣川魅力ある高校づくり課長 委員お話のとおり、遠隔教育については制度上、一定のルールがございます。なかなか難しい部分もございます。例えば、遠隔授業の実施に当たっては、同時に授業を受ける生徒数が原則40人以下でなければいけない、単位認定の評価は配信側の教員が行わなければいけない、そのような縛りがございます。現行制度の要件が緩和されれば、より多くの生徒が学習機会の充実の恩恵を受けることができると思います。また、配信側の教員の負担軽減も考えていけると思っておりますので、引き続き研究を進めて、国への要件の緩和等についても要望等をしていきたいと考えております。

小林委員 私立も含めた、いわゆる高校無償化について、現在国でも議論されてお

り、都道府県の公立高校の倍率の問題など、最近受験シーズンということもあって非常にメディアにも取り上げられ、とても気になっています。やはり、そのような中で、埼玉県立高校の魅力を高めていくことは、これからますます重要になると思っています。今後、この方針に書かれているように、それぞれの学校の魅力を高めていくことになると思いますけれども、その高めた魅力自体をしっかりと伝えていくことが必要になりますし、とても大事だと思います。その辺り、どのように魅力を発信していこうと思っているのか教えてください。

廣川魅力ある高校づくり課長 委員お話のとおり、各学校の魅力をしっかりと発信していくことが重要だと思っております。各学校では、現状でも例えば、地域のイベントなどにおいて生徒が企業と連携して開発した商品を販売する、ものづくり体験教室を実施するなど、そのようなイベントの中で高校生が頑張っている姿を見てもらう機会を積極的に作っている学校が多いと思っております。また、教育委員会や各高校においても、いわゆるインスタグラムなどSNSを使ったリアルタイムの情報発信をさせていただいているところでございます。当課におきましても、各高校の育成方針や教育課程、学校行事などをまとめた各学校の「活性化・特色化方針」をホームページで発信しているところでございます。引き続き、このようなものを活用して県立高校の魅力を広く伝えていきたいと考えております。

小林委員 私も高校生の息子がおりますので、情報をいろいろと見ているのですが、けれども、そのような取組は是非積極的に行っていただきたいと思うのですが、やはり学校によってばらつきがあり、とてももったいないと思うこともあります。実際に情報を受ける方が、どのように情報を集めているのか、まとまっているところはないのか、その辺りもう1歩踏み込んでいただきたいと思います。伝えると伝わるは違いますので、伝わるような情報をどうやって掲載していくのか、掲載することが目的ではなく、そこから伝わらなければ意味がないので、そこも考えてもらいたいと思います。あと、再編整備をこれから実施していくと思っておりますけれども、新しい高校を設置するときには全くないところからの設置になりますので、新しい学校での学びの内容などを中学生や保護者にしっかりと伝えていかなければ

ればならないと思います。その辺り工夫しなければいけないだろうと思うのですが、どのようにお考えなのか、お聞かせください。

廣川魅力ある高校づくり課長 委員お話のとおり、こちらから情報をただ発信しているだけではなく、しっかりその内容が伝わるように、またその情報に是非皆様が集まってきてくれるような、そのような工夫をしていく必要があると考えております。今、お尋ねいただきました新校ですけれども、令和8年4月の開校に向けて現在準備をしているところでございます。新しい高校については、学びの内容などを積極的にPRしていくことが重要だと考えております。これまでの新校でもポスターの作成や報道発表などで、高校の魅力、特色の広報に努めてまいりました。来年度以降になりますが、それに加え、例えば今はY o u t u b e や動画を見て情報収集される方も多いと聞いておりますので、新校の特色等について、そのようなPR動画の作成なども考えていければと思っております。いろいろ工夫をしていければと思っております。

小林委員 やはりメディアなどは、本当に日に日に進歩していますし、受け手もどのような媒体で情報収集するかは本当に変わります。私もいつも見ていますけれども、その辺りのアンテナも張っていただいて、しっかり情報が伝わるようにしていただければと思います。

首藤委員 2点お伺いします。まず1点目は、資料9ページに様々な設置を検討する特色ある学科・学校が示されています。このような学科・学校の設置を実現に移していくためには、まず教育課程が大事だと思います。例えば、国際教育プログラムなど、既にあるものをやっってくださいというだけでは、学校の魅力は出せないと思います。実際には、学校の教員たちが一体となって学校づくりを進めることが求められると思うのですが、設置の段階ではどのように進めていこうとお考えなのでしょう。

廣川魅力ある高校づくり課長 これまでも同様ですけれども、再編整備で新校を設置する際には、具体的な教育内容の検討や、それを日々の教育活動に落とし込んでいくことに当たっては、やはり先生方の新校に対する理解を深めていただいて、どんな学校にしていくか考えて積極的に教育活動に取り組んでいただくことが

重要だと考えております。目指す学校像や育てたい生徒像などの基本理念、あるいは教育活動の基本方針、その具現化に向けた検討の場面では、現場の先生と教育局職員と一緒に検討する委員会などを立ち上げ、議論し、良い学校にしていこうという検討をこれまでも進めさせていただいております。今後実施する段階においても、そのようなことが必要だろうと考えております。

首藤委員 設置の段階から、現場の声を聞きながら一緒に取り組まれているということですね。2点目ですが、再編整備は必要だと思います。様々な県民コメントを頂きましたけれども、再編整備への反対の声は少なくなかったかと思います。実際に具体的な高校が決まれば、地域の方々や学校関係者は、よりいろいろな考えや思いをお持ちになるかと思います。統合して設置する新しい高校が、地域に根付いていくためには、地元や学校関係者の協力は重要だと思います。この辺りどのように進めていくお考えなのか教えてください。

廣川魅力ある高校づくり課長 これまでも進めてきている再編整備の中で言えば、やはり地元のいろいろな思いをしっかりと受け止めながら進めていくことが重要だと思っております。これまでも対象となる学校の実施方策の案を公表した際には、県民コメントの実施や、学校関係者への説明なども行ってまいりました。また、実施方策を策定した後も、地元の学校関係者などに意見を伺いながら新校の準備を進めてきているところがございますので、引き続き、地元市町村あるいは学校関係者へ丁寧な対応に努めてまいりたいと考えております。

首藤委員 是非そのように進めていただきたいと思います。

坂東教育長職務代理者 今年の1月に、魅力ある県立高校づくりの方針の原案について協議を行い、それから多くの県民から御意見を頂く機会を経て、いろいろな御意見を頂いたことは非常にうれしいことだと思います。意見が多かったのは共学化に関することであり、様々な御意見を持っていらっしゃる方がいるというのも、もちろん分かりました。やはり埼玉県の子供たち、これから高校に行く年齢の子供たちの意見も、これからより多く聞いていかないといけないと感じています。このような多くの御意見を頂いたことについて、これからどのように対応されていくのか、お聞きしたいと思います。

廣川魅力ある高校づくり課長　今回、魅力ある県立高校づくりの方針ということで、県民コメントを1か月間行わせていただいて、本当に多数の御意見を頂きました。県立高校に対する熱い期待というものを改めて感じたところでございます。特に、共学化に関する意見については、措置報告書を検討する段階でも様々な御意見を頂いたところでございますけれども、そのようなことも含めて、改めて様々な意見を頂いたと感じております。意見交換を実施していくことを考えているところですが、現在、具体的な方法やタイミングについて検討している段階でございますので、委員からいただいた御意見なども踏まえながら、しっかり対応を検討してまいりたいと考えております。

坂東教育長職務代理者　意見を頂くこともそうですが、やはり高校の魅力を考えていく上で、共学か、別学かの問題だけではなく、県民のコメントの中に、小規模校に対するケアの仕方など様々な有用な意見もいただいて、そちらを今回の方針にも反映していると思います。是非、若い世代の人たちが、どのようなことを期待しているのかということも含めて、今後の魅力づくりに反映させていただきたいと思います。それから、社会全体が少子化に伴って早いスピードで変化しており、魅力ある高校づくりにはオンライン授業など様々なことをリアルタイムに検討していくことが非常に大事だと思います。特に、先ほど小林委員がおっしゃった、いわゆる高校無償化については、やはり県立高校でどのようなことが子供たちに有用なのか、教育全体の中で考えられることですので、他県の動向や私立と公立高校で行うことの違いなど、より多くの議論をしていき、多くの子供たちにより教育ができるような、そのような議論を我々としてもしていきたいと思っています。是非その視点からも、これから方針を進める中で検討を深めていただきたいという気持ちが非常にあります。こちらは意見です。

日吉教育長　様々な御意見ありがとうございます。こちらの方針は、全ての県立高校が取り組むべき幅広い内容になっていると理解しております。先日の県議会においても、私立高校授業料無償化の話の中で、県立高校としてもしっかりと検討していくべきではないかというような御提言も頂いております。今後は、このようなことも視野に入れながら、やはり一つ一つの県立高校が引き続き子供たちに

とって魅力があり、選択していただけるような学校であり続ける必要があると思っています。先ほど、小林委員から伝わることが大事だというお話を頂きましたけれども、そのような魅力をしっかり伝わるようにしていくことが大事だと思いますので、引き続き、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

○ 全出席委員異議なく本案原案どおり可決

(3) 次回委員会の開催予定について

4月10日（木）午前10時

<非公開会議結果>

議事

第24号議案 埼玉県教職員健康審査会委員の任免について 上程

埼玉県教職員健康審査会規則の規定に基づき、埼玉県教職員健康審査会委員の職を解くとともに、補欠の委員を委嘱することを決定しました。

第27号議案 教職員の懲戒処分について 上程

非違行為を行った西部地区の県立高等学校の男性教諭（30歳）に対して、免職する懲戒処分等を決定しました。

第28号議案 教職員の懲戒処分について 上程

非違行為を行った県立三郷特別支援学校の男性教諭（36歳）に対して、免職する懲戒処分等を決定しました。

第29号議案 教職員の懲戒処分について 上程

非違行為を行ったふじみ野市立福岡中学校の女性教諭（34歳）に対して、戒告する懲戒処分を決定しました。

第30号議案 教職員の懲戒処分について 上程

交通事故を起こした美里町の公立中学校の男性教諭（39歳）に対して、1か月間、給料の月額額の10分の1を減給する懲戒処分を決定しました。

第31号議案 教職員の懲戒処分について 上程

非違行為を行った東部地区の公立小学校の男性教諭（35歳）に対して、6月間停

職する懲戒処分を決定しました。

第 3 2 号議案 教職員の懲戒処分について

上程

非違行為を行った東部地区の公立中学校の男性教諭（57歳）に対して、免職する懲戒処分等を決定しました。

第 3 3 号議案 教職員の人事について

上程

4月1日付け埼玉県公立小・中学校等の校長の人事異動を決定しました。

第 3 4 号議案 教育局等職員の人事について

上程

令和7年度当初教育局等職員の人事異動を決定しました。